

○第30回熊野川の総合的な治水対策協議会 議事要旨

開催日時：令和8年3月9日（月）13:30～15:30

開催形式：WEB 実施

出席者：天川村長(代理)、五條市長（代理）、野迫川村長（代理）、十津川村長、熊野市長（代理）、紀宝町長（代理）、北山村長、三重県県土整備部長（代理）、奈良県県土マネジメント部長（代理）、和歌山県県土整備部長（代理）、関西電力（株）水力事業本部副事業本部長、電源開発（株）西日本支店長、近畿中国森林管理局治山課長、近畿地方整備局河川部長、紀南河川国道事務所長、紀の川ダム統合管理事務所長、紀伊山系砂防事務所長

1) 規約変更

近畿地方整備局河川部より報告

2) 各機関の取り組み状況の報告、意見交換

(1) 河川改修と利水ダムの治水協力

・河川改修の進捗状況

近畿地方整備局河川部、紀南河川国道事務所、奈良県、和歌山県、三重県より説明

・ダムの治水協力

電源開発（株）、紀の川ダム統合管理事務所より説明

(2) 濁水対策を含むダムの運用・管理

近畿地方整備局河川部、電源開発（株）、関西電力（株）、紀の川ダム統合管理事務所より説明

(3) 治山・砂防・河道閉塞対策（濁水の発生源対策の効果を含む）

近畿中国森林管理局、奈良県、和歌山県、三重県、紀伊山系砂防事務所より説明

3) 総合土砂管理専門部会からの報告

近畿地方整備局河川部より報告

→（和歌山県）

第3回の総合土砂管理専門部会において、県の水産部局より置き土後のクレンジングに対する懸念意見が出たことに対して、クレンジングが鮎への悪影響になっているというのは間違った意見であり、改めるべきとの意見があった。

この水産部局からの意見の趣旨としては、水産部局としては置き土の実施自体は賛成しているが、今後漁協や地元に対して置き土について説明していく際に、丁寧に説明していかないと、置き土による悪影響があると誤解される可能性があるということだと水産部局より伺っている。

→ (近畿地方整備局 河川部)

丁寧に説明していかないと置き土による悪影響があると誤解される可能性があるとのことでしたが、河川管理者やダム管理者が熊野川の総合的な治水対策を推進するために取り組んでいる種々の対策について、こちらから情報を提供すれば漁協組合の方々は分かって頂けるのか、あるいは現地視察など理解して頂く機会を設けることができるのか教えて頂きたい。

→ (和歌山県)

水産部局の担当者がこの場にはいないため、即答はできないが、地元や漁協等への親切な説明を行っていくのにあたって、互いに情報共有しながら進めていきたいと思っている。

4) これからの熊野川のあり方について意見交換

近畿地方整備局河川部より報告

各機関より意見交換

→ (北山村)

北山村においては、ダムの観光放流や筏下りを行っているところです。ですので今後とも水が濁らないように、そしてダムと共存して地域の活性化を行えるよう、今後とも一緒になって考えていきたいと考えております。

→ (十津川村)

平素よりいろいろお世話になっておりまして、ありがとうございます。総合的な土砂管理という治水対策協議会ということで、平素より携わっていただいておりますけど、やはり一番の問題としましては、堆砂の状況がひどいというところでございます。その中でも電源開発のダムにおける堆砂が特に顕著でございます。専門部会においても、置き土試験を行ってその結果のもと自然流下を行っていくべきではないかというご意見が出ていると思いますが、それにつきましても、まず二津野ダム直下から試験をしていただき、実際、環境にどれぐらいの影響があるのかというところを含めて、漁協さんや下流域の地元の皆様の合意をしっかりと得た上で進めていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をいただきたいと思いますとおるところでございます。

→ (天川村)

平素より堆砂状況の関係で、関西電力さん、奈良県さんにおいては事業協力していただき、誠にありがとうございます。村といたしましては、県や村で実施している河川工事に対して、濁水対策の実施について、徹底的には指導の方を実施させて

いただいているところです。本村は、特に熊野川の最上流部に位置しており、濁水関係についても山の崩落が起因しているということも考えておりますので、今後、治山の対策等については、充実した形での実施と各関係機関への事業の推進を働きかけていきたいと思っております。

→（紀宝町）

熊野川の河道掘削、またダム治水協力等につきまして、関係機関の皆様におかれましては、ご支援ご協力いただき感謝を申し上げます。熊野川の下流に位置する当町、熊野川との関係につきましては、ご承知の通り、世界遺産に登録されております川の参詣道であります。熊野川を巡る川船、紀宝町における三反帆といった観光歴史的文化が存在をしております。熊野川は当町の上水道水源であることから、誠に深い関わりがございます。これからの熊野川との関わりにつきましては、河道掘削土砂を公共事業や民間の建設資材、侵食が進む七里御浜海岸の養浜材として積極的に利活用するなど、資源循環総合土砂管理の仕組みにつきまして、国、県、町、関係機関で構築をしていただきたいと切に考えております。

→（熊野市）

本日は各関係機関の取り組み状況をご報告いただき、事業の進捗と一定の効果が見られ、皆様のご尽力に厚くお礼を申し上げます。熊野市といたしましても、熊野川は市民生活に加え、地域の産業や観光、環境に関わる大切な川でございまして、特に、洪水氾濫による災害や河川環境の保全を懸念しております。流域の一員として、協力連携してまいりますので、引き続き、河道掘削や堆積土砂の撤去、ダム治水協力や濁水対策等の推進について情報の共有にご配慮いただきますようお願いいたします。

→（野迫川村）

近畿地方整備局の直轄事業として実施されている、あの北股地区の工事につきまして、近畿地方整備局及び紀伊山系砂防事務所の皆様にご多大なるご尽力を賜っておりますこと心より感謝申し上げます。

野迫川村は、熊野川の源流域に位置し、豊かな森林資源と清らかな水環境に恵まれた地域です。本村では、これらの貴重な自然を将来世代へ守り継いでいくため、山腹崩壊や土砂流出の防止を目的とした治山事業並びに河川環境の保全と安全確保を図る河川整備について、奈良県に対して継続的に要望を行っていききたいと思っております。

現在、本村では災害に強い山づくりを目指しており、森林整備を行っているところです。その一環として、スギやヒノキの間伐材や広葉樹を活用して薪を製造し、これを熱源としてホテルのせ川の温泉施設で利用する取り組みを行っております。薪ボイラーの工事は今年3月末までに完成し、5月頃から本格稼働を予定しております。この取り組みにより、間伐材を山林に放置することなく有効活用し、森林整備を促進することで、土砂の河川への流出防止にもつながると期待しております。また、本村では清流を生かして毎年4月初旬から8月末までアマゴの放流を行い、釣り客の皆様にも楽しんでいただいております。そのため、川へ降りる道の整備や水質保全など、日頃から美しい河川環境の維持に努めております。

今後とも自然環境と調和した取り組みを推進しながら、水質の保全と景観の維持に努め、安心して親しんでいただける川づくりを進めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

→ (五條市)

五條市と熊野川ですけれども、歴史的にも治水という面でも非常に深く、切れない関係であるというのは承知しております。その中でも、紀伊半島大水害の発生もございましたので、今後とも、気象災害に注意しながら、治水の面でそれぞれ協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

→ (近畿地方整備局 河川部)

各自治体におかれましては、この度は、熊野川に対する色々な思いや、関係性、活動内容について教えていただきまして、本当にありがとうございます。上流の自治体におかれましては、例えば野迫川村さんでは間伐材を流出させないためのボイラー設備やアマゴの放流にてもっと河川を活用してもらおう取組、北山村さんの筏下りといった様々な取り組みを行っているのに対して、下流に向かうにつれて、水質に関する関心が多いように思われました。

流域総合水管理の概念的に言うと、水の利用を含めて、地域の人たちや関係者がやれることをやって、より良い河川利用や治水を行ってきたいというのが、そもそもの発想でございます。この度は、この考えを踏まえてどういう、取り組み方をするのが良いのか確認したいと思いお聞きしたところでした。

総じて言うと、濁水の問題が非常に問題視されているところが多く、土砂管理を踏まえたご発言が見受けられたように思います。これらは非常に大切なことではありますが、歴史や文化の形成でも必要だったという言葉もございましたが、生活の中でどのような関わり方を流域でやっていくのがよいかこの度議論させていただきたいと思っていた部分でした。ですので、もっとこういう活用のあり方があってもいいのではなどの意見が出てくると、我々県も含めた河川管理者の河川整備の方針

において参考になると考えております。今後いろいろと議論させていただくことが増えると思いますが、熊野川の使い方や活用方法について、熊野川流域の自治体より意見がいただければありがたいと思っております。そのほか、市町村さん以外でご意見のある方はご発言をお願い致します。

→（電源開発株式会社）

熊野川流域には弊社のダムが多数ございます。その中で弊社の発電事業及び運用につきまして、多大なるご理解、ご協力いただいておりますことを御礼申し上げます。弊社としましては、治水協力、更なる河川環境の改善、カーボンニュートラルへ貢献するべく、治水協力・濁水・堆砂の取り組みを着実に進めるとともに、バイパストンネル等の設置に向けた検討を進めていきたいと考えております。

→（関西電力）

熊野川自体、治水利水環境と非常に密接に関わっている河川ですが、土砂管理も含めて、流域全体で、最適解を考えていくことが必要であることは、我々としても共通の認識を持っているところです。また総合土砂管理部会からご報告ございました動く河床を取り戻す必要があるということについても、我々として非常に重要だと認識しております。ただ、治水、利水、環境、そして地元の方々も含め、関係箇所が非常に多いこともあるので、一つ一つの本格的な検証と、丁寧な説明が必要であると思っております。当社としてもダムの維持は非常に重要でございます。再生可能エネルギーの観点からも重要でございますが、ダムを通じて治水面で流域に貢献していくことも使命であると認識しております。小規模な試行や、モニタリング等を行いながら、段階的に我々も出来る範囲で、いろいろ取り組みをしていきたいと考えております。

→（三重県）

三重県としては、海岸管理者の側面でいえば、近年、七里御浜海岸の侵食が激しい状態がございます。様々な原因があるといわれているところですが、熊野川からの土砂の供給量や海流も関係してきますので、海岸も含めた流域全体の土砂収支を考えていただきたいと考えております。また県としても、積極的に協力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

→（和歌山県）

和歌山県としての熊野川は、川自体が川の参詣道ということで世界遺産に登録されており、環境面に関しては先ほど北山村長が言われたように、水質の問題等に重視していきたいと考えております。また、世界遺産ということなので、観光面につ

いても、筏下り等、推進していきたいと思っております。

流域治水という点では、平成23年の水害が起こったように、大きな災害が発生しかねない河川であると考えております。

水利用の点では、水を有効活用した、再生利用のエネルギーという形での水利用というところも考えていけるのではないかと考えているところです。

これらの課題を、どうつなげていくかという部分においては、今後検討していく必要があると考えております。

→ (奈良県)

堆積土砂の影響については、各市町村、村の方からもご意見のありました通り、市町村や住民が非常に不安に感じておられることは認識しているところです。紀伊半島大水害以降に今もなお、土砂が堆積し続けているという場所もあり、本県としても治水や、景観、環境の観点からも非常に大きな課題だと考えているところです。近年、昔の川と比べて見た目が変わってきたというお話も頂いていますので、昔ながらの自然豊かな熊野川を取り戻すことを目指して、現在、堆積土砂の撤去、砂防、治山事業というのを本県としても続けているところです。今後とも、国、沿川自治体さんと連携しながら住民の不安解消に向けて取り組んでいきたいと思っております。

5) その他

→特に意見無し